



RELAY G10S

パイロットガイド ▶

システムの概要

- ワイヤレスの自由度を備えたペダルボード
- クラス内最高のサウンドクオリティ:
 - 24ビット非圧縮デジタルトランスミッション
 - DACおよびADCクラス最高のコンバーターによる、超低ノイズなトランスミッション(110dBよりも優れたダイナミックレンジ)
- セットアップ不要の簡単操作
- プレイスタイルに最適なチャンネルを自動的に選択
- マニュアルでのチャンネル設定で複数のワイヤレスユニットとのセットアップも可能
- 1回の充電で最長8時間の駆動が可能
- 最大伝送範囲40m

2.4GHz ワイヤレス

Relay® G10Sは2.4GHzワイヤレスシステムのため、他のRF送信器の近くにレシーバーを設置しないようにしてください。G10Sレシーバーは、他のRF送信機(Wi-Fiルーター等)から少なくとも3mの距離を置いて設置する事をお勧めします。

Relay G10Sシステムは、トランスミッターをレシーバーとドッキングさせ、チャンネルセクターがAUTOに設定されてある場合、自動的に最適なチャンネルを選択します。WiFi装置や他の2.4GHzワイヤレスチャンネルを変更した際は、少なくとも10秒間はレシーバーにトランスミッターをドックさせてください。

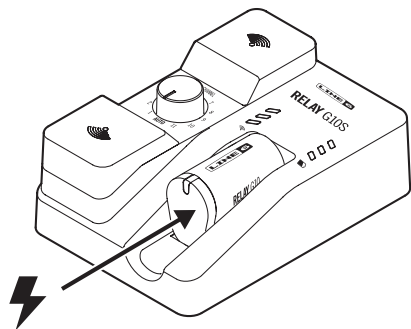
同梱品:

- Relay G10T ギタートランスミッター (G10SRレシーバー単体製品には含まれません)
- Relay G10SRレシーバー
- 9V DCパワーサプライ
- ライトアングル6.3mmアダプター (G10SRレシーバー単体製品には含まれません)
- USB-A-マイクロUSB-Bケーブル使用
- パイロットガイドとエンドユーザー契約

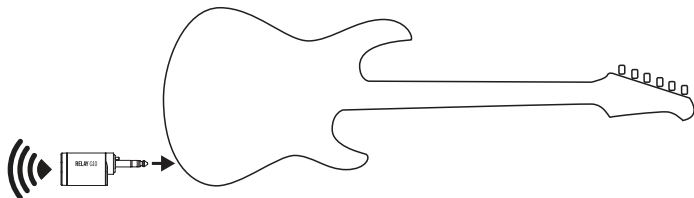
はじめに

1. トランスミッターをレシーバーに接続します。トランスミッターをレシーバーにしっかりと差し込んでバッテリーを充電します。トランスミッターがフルに充電されるとLEDが緑色で点灯します。

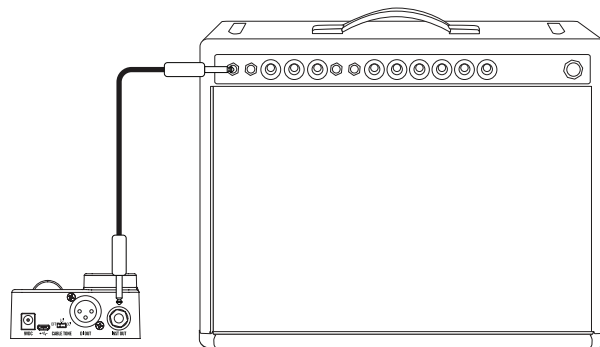
ドッキングにより、トランスミッターとレシーバーは自動的に最適なチャンネルに設定されます。



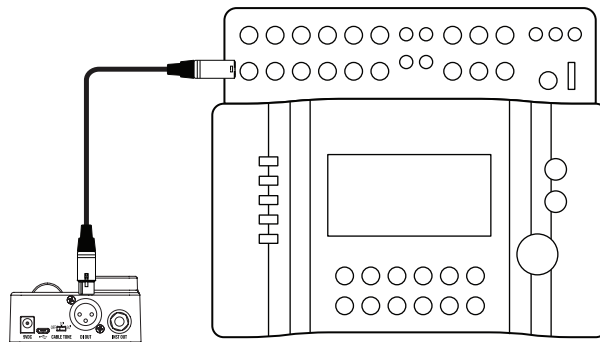
2. トランスミッターをギターに接続します。



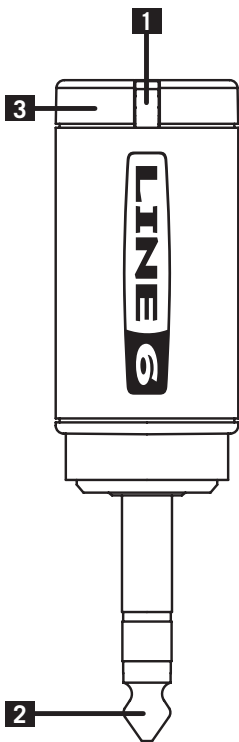
3. レシーバーを9VまたはUSBパワーソースへ接続します。レシーバーのINST OUT端子ををアンプまたはエフェクトユニットに接続します。



4. ベースやアコースティックギターでDIとして使用する場合は、XLR DI OUT 端子をミキサーまたはオーディオインターフェースへ接続します。



トランスミッターの詳細



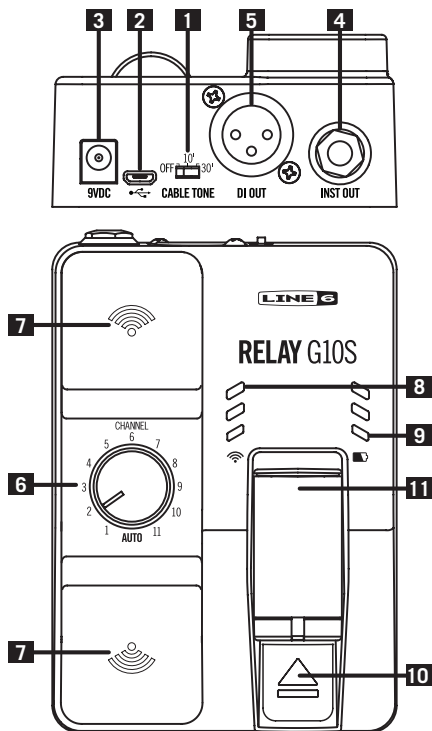
1. **バッテリーの状態** - トランスミッターの電源を入れた際に、バッテリー使用で操作時間が30分以上可能な場合、このLEDが緑色で点灯します。操作可能時間が30分を下回ると、LED が赤色で点滅します。

トランスミッターを充電する際にレシーバーへドックすると、LEDの赤色の点滅はバッテリーでの操作時間が30分を下回ることを意味し、緑色の点滅は30分以上、緑色の点灯はフルに充電されていることが確認できます。

2. **ギタープラグ** - ギターへ接続します。
3. **アンテナ** - 調整済みの内蔵アンテナは、通常の使用において損傷、変形することはありません。性能を十分に発揮させるためにも、金属製のシートやアクセサリーでアンテナを覆ったり、パフォーマーの身体がアンテナに接触しないように注意してください。

スリープモード - オーディオ入力を検出しない状態が4分間継続すると、バッテリーの消費を節約するためにスリープモードに入ります。楽器が演奏されるとトランスミッターは自動的に起動します。

レシーバーの詳細



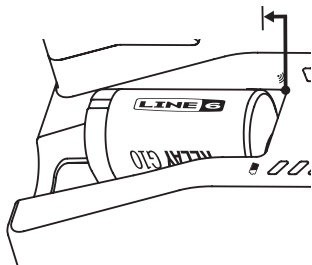
1. **CABLE TONE** - ペダルまたはアンプをケーブルで接続すると、ケーブルの長さによってサウンドは変化します。ケーブルトーン機能は、3mまたは10mケーブル特有のキャラクターをサウンドに加えることができます。
2. **マイクロUSB** - ファームウェアを更新する際、または電源オプションとして使用します。

3. **9V DC** - 主要アダプター(9VDC/500mA)電源として使用します。
4. **INST OUT** - ギターペダルの入力またはアンプへ接続します。
5. **XLR DI OUT** - バランスXLR出力はミキシングデスク、オーディointerフェイス、パワースピーカーまたは同様のデバイスとの接続でDILレベルを実現します。
6. **CHANNELセレクトター** - G10Tトランスミッターをレシーバーにドックさせ、**AUTO**に設定しておくで自動でチャンネルを選択します。または、G10Tトランスミッターをレシーバーにドックさせ、チャンネル番号を設定して固定チャンネルを選択するように設定します。複数のワイヤレスユニットを使用する場合は、この方法をお勧めします。
7. **アンテナ** - 様々なアンテナがG10TトランスミッターからのRF信号を受信します。アンテナが覆われていないことを確認してください。
8. **受信LED** - 3つのLEDが受信したRF信号の状態を緑色で示します。マニュアルで RF チャンネルを選択した際、G10Tトランスミッターが現在信号を何も受信していない場合、これらのLEDが干渉レベルを赤色で表示します。これにより、干渉が最も低いRFチャンネルを選択することができます。
 - 3つの赤色LED= 75%以上の干渉 (使用不可能)
 - 2つの赤色LED= 50%の干渉 (狭い範囲内でのみ使用可能)
 - 1つの赤色LED= 25%の干渉 (使用可能、電源がオンであることも示唆)
9. **バッテリーLED** - 3つのLEDでG10T使用中のバッテリー残量を示します。
 - 3つの緑色LED= 6時間以上
 - 2つの緑色LED= 3時間以上
 - 1つの緑色LED= 1.5時間以上
 - 1つの赤色LED= 30分以上
 - 赤色で点滅する1つのLED= 30分以下
10. **ラッチの開放** - G10Tが外れないように保持します。G10Tトランスミッターを取り外すときは、ラッチを押してG10Tを取り外します。

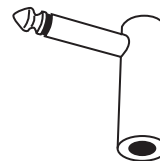
11. **ドックさせたG10Tトランスミッター** - G10Tトランスミッターをドックさせるでバッテリーを充電し、G10T側でチャンネルを設定します。

チャンネルセクターを**AUTO**に設定しておくと、G10Sレシーバーがスクランを開始し、自動的にレシーバーとトランスミッターを最適なチャンネルに設定します。

Relay G10Sシステムの保存と持ち運び: G10Tトランスミッターを固定位置からずらすとカチッという音と共に接触が外れて電源がオフになり、電池が消費されることはありません。



ライトアングル6.3mmアダプター: 同梱のRelay G10トランスミッター用アダプターを使用すれば、ギターに対して直角に接続することができます。好みに応じてご使用ください。規格外のコネクタ配線を持つアクティブギターであっても、より改善された互換性を提供します。詳細は line6.com/support/g10adapter をご覧ください。



© 2019 Yamaha Guitar Group, Inc. All rights reserved.

Line 6, the Line 6 logo, and Relay are trademarks or registered trademarks of Yamaha Guitar Group, Inc. in the U.S. and/or other jurisdictions.